

平成18年度 事業報告書

目 次

【1】 学園の事業報告

1. 学園の報告
2. 文理学園の財務概要

【2】 設置校の事業報告

1. 日本文理大学
2. 日本文理大学附属高等学校
3. 日本文理大学医療専門学校
4. NBU 大分美容専門学校

学校法人 文理学園

平成18年度 事業報告書

【1】 学園の事業報告

1. 学園の報告

(1) 勤怠管理システムの整備

平成19年4月からの運用を意図し、教職員の出退勤管理を電子化するために、タイムレコーダーを設置校全てに導入した。また、身分証を兼ねたICカードを教職員全員に配布した。

(2) 給与表の改定

大分県が、新給与表の導入したことに伴い、本学園も県に準じて新給与表を導入した。

(3) 教育環境の整備

学園の教育環境整備を以下のとおり実施した。

i) 大学について

学生憩いの場の学生ホール設置、体育施設整備の一環として土木実習地の有効活用を図る為クロスカントリーコース設置、棟内に設置していた喫煙室を棟外へ移動、旧寮跡地の有効利用として駐車場の整備。改修として、経年老朽の窺える講義棟照明・空調機器・トイレ・分電盤の改修および設備機器更新。また、外部来構者・関係者へ構内配置を分かり易くするための老朽化した学内案内板を新規に作成。

ii) 高校について

体育施設としては、野口野球場内へ屋内練習場設置、クラブ活動部員寮の浴室整備等を実施。安全対策においては、高校校舎裏山よりの落石防止対策として、国有地との境界確認測量を実施し、法面吹き付け工事、落石防止のフェンス設置により雨期や台風時期の落石を防止。また、防犯対策として監視カメラを設置した。

iii) 医療専門学校について

全学科の運用が本格化する事を受け実験室及び教室の整備を実施。

iv) 美容専門学校について

共有地の売買により敷地内に布設されていた給水管、汚水管の布設の切り替え工事、外壁からの漏水による雨水対策を壁面防水工事により改善。

(4) 新理事長就任

平成18年12月24日に逝去しました菅幸雄前理事長に代わって、平成19

年1月17日開催の理事会において副理事長菅 貞淑氏が新理事長に選任された。

(5) 学園葬の举行

前理事長 菅幸雄氏の教育業績を偲び、平成19年1月27日に学園葬を举行了。

2. 文理学園の財務概要

(単位：百万円)

区分	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
資金収入	10,788	12,957	12,384	12,521	14,877
資金収支	14,045	12,077	14,095	12,939	11,506
資金増減額	△3,257	879	△1,710	△417	3,371
帰属収入	4,490	6,175	6,848	5,893	4,689
消費支出	7,087	4,924	5,245	5,074	4,920
消費収支差額	△3,136	844	1,243	464	△529
資産総額	43,833	45,194	46,970	47,450	47,127

(注) 1. 単位未満切捨て

2. 資金収支及び資金支出は、繰越支払い資金控除後

【2】 設置校の事業報告

1. 日本文理大学

(1) 教育課程と組織

- i) 工学部7学科のうち、建設都市工学科、建築デザイン学科、環境マテリアル学科の平成19年度以降の募集を停止し、新たに平成19年度に建築学科を設置する届出を行い受理された。また、これに伴い学則変更を行った。
- ii) 工学部旧学科の建築学科、航空工学科は在籍学生が卒業したので廃止した。
- iii) 平成15年度に改組を行った経営経済学部については、完成年度を迎えたので、履行状況の報告を行った。
- iv) 新たに教育の理念「産学一致」・「人間力の育成」・「社会・地域貢献」を定め教養基礎科目・専門科目のカリキュラムに理念の意義を反映させた。
- v) 教授、助教授、講師、助手の職位を変更し、新たに教授、准教授、講師、助教の職位を設けた。また、これにともなって、関係する規定の変更を行った。なお、講師の職位は新規採用者には適用しないことにした。

(2) 教育活動

- i) 学生一人ひとりに対して責任ある教育を行っているが、学力の高い学生のための

選抜コースを立ち上げ、所属する学生の資質向上を指導するため、特別なカリキュラムを実施した。

- ii) 前年度に続き学期毎に2回の授業アンケートを実施し、授業改善の努力を行う一方効果的な授業のための研修会を開催した。
- iii) キャリア開発教育として、学年に応じた個別対応面談システムを運用して、就職率100%を目指した。最終的には就職率は96%であった。また、各種資格取得のための講座の開設、インターンシップの推進、合同企業セミナーの開催など多様な指導に基づくキャリア開発教育を引き続き行った。
- iv) 多様化する学生のため、学生相談室と連携を保ちながら、学生の学習意欲の高揚を図った。
- v) 産業カウンセラー協会との教育提携を他大学に先駆けて行い、産業カウンセラー養成講座を開設した結果、受講生の中から4名の合格者を出した。
- vi) スポーツトレーナー資格取得のためのNSCA (National Strength & Conditioning Association) 認定のCSCS (Certified Strength & Conditioning Specialist) プログラムを平成19年度より開設する準備を行った。

(3) 研究活動

- i) 文部科学省の研究推進事業である「私立大学学術研究高度化推進事業」の中の「ハイテク・リサーチ・センター整備事業」に採択された本学のマイクロ流体技術研究所の研究プロジェクト「昆虫型超小型飛翔ロボットの研究開発」を昨年を引き続き推進し、中間報告に向けて研究成果を蓄積した。なお、本研究による発見等を特許出願し、特許として登録した。
- ii) 「産学官民連携推進センター」を中心にして、教員の研究情報の集約を行い、研究者名簿及び研究テーマ、並びにホームページの作成準備を行った。
- iii) エンジニアリング・リサーチ・センターでは、CATIA ソフトを利用しCAD/CAM一貫加工システムの研究を行い、特に5軸加工技術の教育を行った。
- iv) 引き続き、電気自動車の研究開発を続行した結果、満充電300kmの走行が可能となり、実用車としての研究開発は完成した。

(4) 広報活動

- i) 定員充足のため、営業募集活動に励んだが、理系志望者数が減少し、また大学間の競争も激化してきた。
- ii) 長期ビジョンを考えた広報活動(CM・新聞広告など)に予算を投入し、大学の特色として「人間力の育成」をアピールし、大学の存在感を訴求した。
- iii) 経営基盤は学生数確保であるという意識を全教職員が認識し、改革業務に積極的に参加し、学生満足度という観点から全額に働きかけ、改善を行ってきた。
- iv) HPの管理・運営体制について、メディアセンターや各学科広報委員と連携し、

効果的な広報ができるようなシステム作りに着手した。

- v) DMについて、タイミングやタイムリーな内容等を検討した結果、志願者数が増加した。特に、合格通知を送付した後のDMは、歩留まり率をアップし効果的であった。
- vi) センター入試については、全学的な協力を得て、トラブルなく実施できた。

(5) キャリア支援活動

- i) 就職講座の内容をより充実させ、さらに個別指導を徹底することで、昨年度より高い就職率を達成することができた。今後は、特待生を優良企業に送り出すためのプログラム、留学生就職サポート、補助金申請に必要なインターンシップ推進などの課題を解決できるように鋭意検討した。
- ii) キャリア開発プログラムのテキストを改訂し、担任制と連動し、キャリア教育を継続しているが、学生の価値観や学力の多様化を踏まえ、導入教育に移行していく必要があり、人間力育成プログラムに発展させた。
- iii) 大分県内の企業開拓を積極的に行い、ジョブカフェとの関係づくりも強化した。
- iv) 厚生労働省や経済産業省が求めているコミュニケーション能力の向上のため、YESプログラムを取り入れた。
- v) 九州地区並びに九州近県の学生募集を強化した。

(6) その他

- i) 教員評価システムを構築し、教員の教育研究・社会貢献活動の活性化を図った。
- ii) 各種スポーツの振興、向上をめざした。特に、チアリーディング部は昨年 continué 「ジャパンカップ2006」において全国制覇を成し遂げた。また、レスリング部・サッカー部・女子ソフトボール部・陸上競技部は全国的にめざましい戦績を残した。
- iii) 科学研究費補助金をはじめ、学外からの研究資金の導入に努力した。

2. 日本文理大学附属高等学校

(1) 教育活動

- i) 円満な人格の形成と優れた知識・技術の練磨を教育し、社会の有為な人材の育成に傾注した。
- ii) 地域に開かれた学校を目指し、ボランティア活動による地域参加など、人との係わり合いを通して思いやりの心を持つよう指導した。
- iii) 学期に1回の実力考査にて、国語・数学・英語の3教科における学力不足者に対し、放課後に「基礎学力補習」を実施した。(学期に12時間)
- iv) 進学コースの生徒に対しては7限目・8限目の授業、隔週の土曜日、春季・夏季・冬季の休業中に補習を実施した。

(2) 生徒募集

- i) 平成18年度は、前年度に比べて中学卒業生数が大幅に減少したが、本校への入学生数は増加した。生徒の安定確保のため、今後の募集活動方法を再検討する必要がある、早期に活動を開始し、募集エリアも拡大する検討を行った。

(3) 基本的な生活習慣の確立

- i) 高校生としての基本的な生活習慣を確立させる為の指導を実施した結果、遅刻者数の減少、服装違反者数も少なくなり、地域住民から好意的な評価を得る等の成果が出た。
- ii) 全校で取り組んでいる「挨拶運動」の啓蒙活動を引き続き実施した。

3. 日本文理大学医療専門学校

(1) 教育活動

- i) 学習報告書の提出を義務付け、学生の授業態度の改善をはかった。
- ii) 診療放射線技師免許国家試験合格率90%以上をめざし、夏季補習および湯布院研修所勉強合宿を実施した。結果、
受験者数：45名、
合格者数：41名（合格率：91.1%）
- iii) 次年度から始まる全学科臨床実習に対応するため、臨床実習巡回指導を全教員で実施した。
- iv) 次年度の全学科臨床実習に対応し、また、県内の病院の負担を軽減するため、県外の医療施設にも臨床実習を拡大した結果、県内外に約40施設を確保することができた。（本年度は県内のみで、22施設）
- v) 次年度から校時を変更することを計画し、朝のショートホームルームを導入し、出欠の確認と連絡事項を徹底することにした。

(2) 学生生活

- i) 全校集会を毎月実施し、学生指導及び伝達事項の周知徹底をした。
- ii) 学生との個人面談を実施し、問題の把握と指導対応を徹底した。
- iii) 学習報告書提出を義務付け、学習内容の理解度が把握出来るようになった。
- iv) 学生の遅刻・早退・欠席をなくすため、呼び出しのなど個人指導を強化した。
- v) 学級委員を選出、学生会を組織した。
- vi) 球技大会を実施した。（8月）
- vii) 学年毎に進路セミナーを実施し、社会人として、また、医療技術者としての資質の向上をはかった。
- viii) 校門指導を実施し、挨拶の励行、服装・頭髪指導を徹底した。
- ix) 成績不振者に対し、放課後または早朝の補習を実施した。

x) 学生用シラバスを配布し、学習意欲の昂揚につとめた。

(3) 広報活動

- i) 参加型オープンキャンパスを年 2 回 8 月と 11 月に実施した。
- ii) ミニオープンキャンパスを毎週土曜日に実施した。
- iii) 高校生のための進路ガイダンスに参加した。(21 会場)
- iv) 生徒募集のための高校訪問を実施した。
- v) 学校案内パンフレットを改訂した。
- vi) 医療専門学校独自のインターネットホームページを開設した。
- vii) インターネットホームページを開設した。

(4) 学校運営及び組織改革

組織運営の円滑化をはかるため、以下の改革を実施した。

- i) 校務分掌上の業務分担を明確にし、伝達事項及び指示の円滑化を図った。
- ii) 全教職員参加の職員朝礼を毎日実施した。
- iii) 校長、副校長、事務長、教務主任、進路指導主任、学生指導主任、各学科教室主任から成る運営委員会を、毎週水曜日朝礼後に実施した。
- iv) 危機管理マニュアルを作成した。
- v) 実験室等の備品及び消耗品を整備し、教室毎に管理する備品台帳を作成した。
- vi) 現行入試制度を再検討し、平成 20 年度入試実施要領を作成した。
- vii) 各分掌、各学科において、年間目標を設定し、年度末に実施状況を分析して学校自己評価表を作成した。

(5) 施設・設備

- i) 各実験室に収納戸棚を設置し、備品等を収納・整理した。
- ii) 図書閲覧室を開設した。
- iii) 授業内容の充実と効率化をはかるため、プロジェクターを購入した。
- iv) 学習報告書提出室及び学生指導や就職情報閲覧のためのコーナーを新設した。

(6) 教員の資質の向上

- i) 各教科・科目毎の学習指導を見直すため、学生に配布するシラバスを作成した。
- ii) 学習評価基準を見直し、評価の統一をはかった。
- iii) 教職員研修を 2 回実施した。

4. NBU 大分美容専門学校

(1) 教育活動

- i) 個々の学生の不得意科目を把握し、特別指導を実施した。
- ii) 国家試験に準じた模擬試験を定期的実施した。
実技：見極め試験を 2 回実施、不合格者は冬休みに特別指導を実施した。

学科：2月の毎水曜日に計4回実施、合格点を80点（国家試験は60点）として、不合格者には誤答ノートを利用して指導した。

- iii) 実践に即した技術の修得のため、サロン実習を1回設定し、サロンにおける実務の流れや接客の仕方、また、アシスタントの仕事を実際に体験した。
- iv) 講義内容の理解度を把握する為、学習報告書を毎時間提出させ教員が添削指導した。
- v) 大学編入に対応するためシラバスを整備し、授業時間単位を90分にして完全単位制に移行した。実習には大きな意義があるが、座学では集中力を持続させる上での課題が残った。

(2) 広報活動

- i) 学生の安定確保を最重点課題と位置付け、積極的な募集活動を全教職員で実施することとした。
- ii) 毎週土曜日にオープンキャンパスを実施した。
- iii) コンテストやイベントに積極的に参加し、学校名をアピールする為、美容芸術科の学生は外部コンテストに参加した。
- iv) 次年度入学希望学生の注目を集めるため、年間行事や授業を工夫し、海外研修、東京・福岡研修、ワインディング校内外大会、着付け教室、お別れ会などの行事を企画した。

(3) キャリア支援

- i) 就職や大学への編入学の相談については、学年クラス担任及び就職指導の教員が、学生個々の進路希望に沿った個別指導を早期に実施した。
- ii) 定期的に進路面接を実施し、校内での会社説明会を開催するなど、就職に向けたサポート体制作りに取り組んだ。
- iii) 保護者に対して学校通信を作成し、学校での状況を定期的に連絡した。